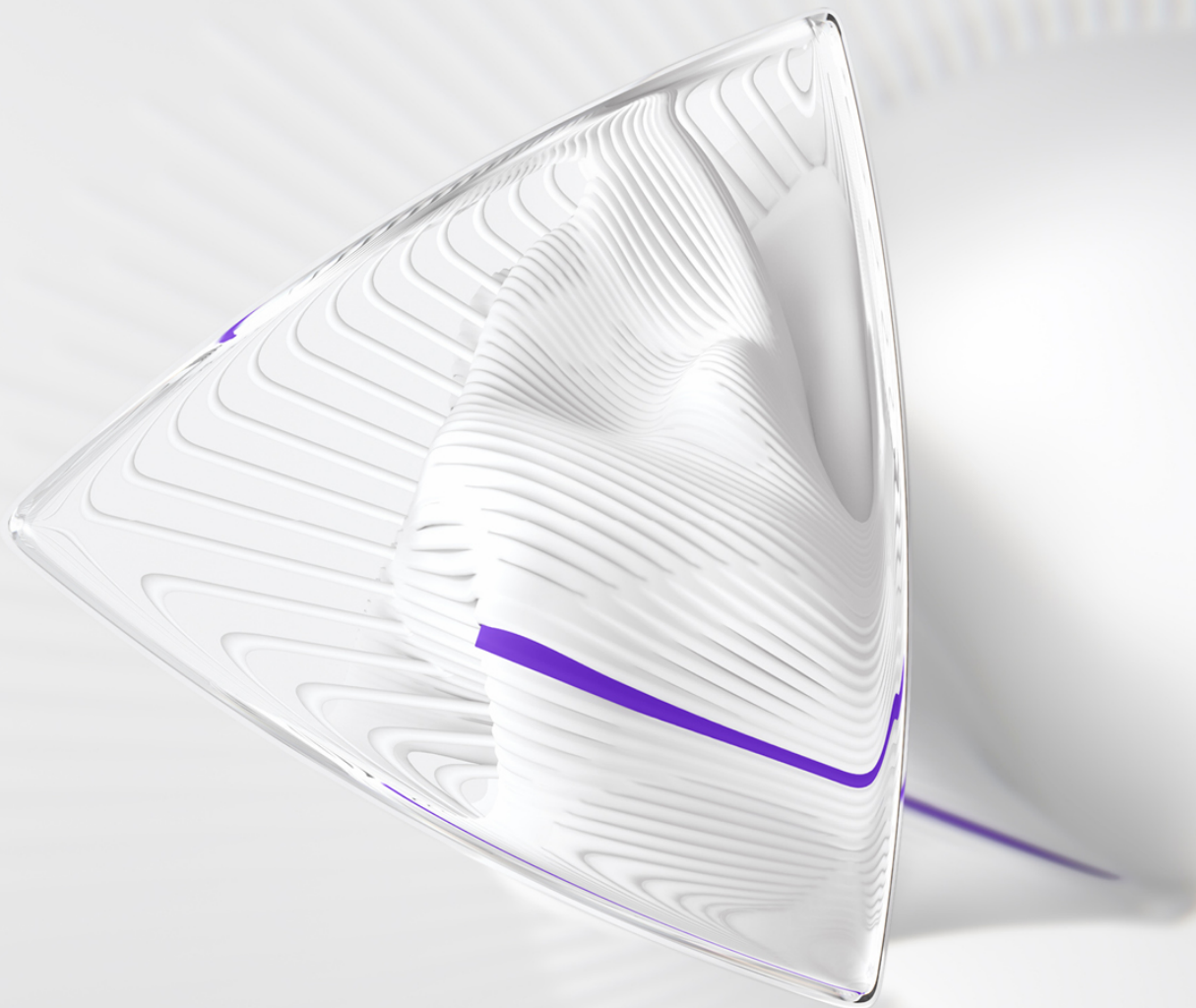




ScholarOne Manuscripts リリースノート

2023 年第 1 四半期リリース



概要

ScholarOne 製品チームはセキュリティ、パフォーマンス、ユーザーエクスペリエンスの継続的な改善に積極的に取り組んでいます。以下では、このリリースにおけるプラットフォームとツールの主な改善、不具合の修正と最適化について説明します。

また、デフォルトの構成値に関する情報と各機能の構成手順も示します。新機能の中には、管理者または ScholarOne の担当者が有効にしなければ使用できない機能もあります。許可や構成に関するご質問は、発行者チームまたは ScholarOne にお問い合わせください。

ワークフローの変更は影響するすべてのユーザーに伝えてください。

本リリースに記載された事項についてご不明な点がございましたら、ScholarOne 製品サポート (s1help@clarivate.com) までお問い合わせください。

内容

1. STM 出版基準に沿った新しいピアレビュー分類
2. Reviewer Recommender ツール（概念実証）
3. Web of Science 査読者検索結果用の国フィルター
4. ユーザーのデモグラフィック情報のための Cognos レポート
5. 査読者リストのページネーションの更新
6. Cookie 同意バナーと Cookie の設定管理
7. S3 へのバッチエクスポートのデポジット
8. 論文ヘッダー内の「投稿からの経過時間」の調整（分数と秒数を含むように）
9. 新しい E-Mail タグ: ##TASK_DECISION_AUTHOR##
10. 新しい E-Mail テンプレート: スタブの拡張付与
11. Publons のブランド名変更（進行中）
12. 論文転送時にも保持される寄稿者ロール分類（CRedit）論文情報
13. 新しい構成オプション: 査読完了時の未投稿防止
14. 通知サービス: 著者の依頼取り消し、著者のアサイン解除、スタブの期限変更
15. OA 著者の公開方法選択に関する Cognos レポート
16. 主な問題と機能の最適化
17. ScholarOne ですでに利用できる機能
18. ScholarOne の今後の予定

2023 年第 1 四半期リリース更新

1. STM 出版基準に沿った新しいピアレビュー分類

STM 出版基準で定められた最新のピアレビュー分類に従い、ScholarOne 内の言葉遣いを修正しました。STM の標準領域で、これまで「ブラインド法 (blinding)」と表示されていた部分を、差別的表現を避けるため、「匿名化 (anonymized)」と表示するように変更しました。

ユーザー

著者	査読者	編集者	管理者
----	-----	-----	-----

必要なアクション

ScholarOne の標準領域ではデフォルトで適用されます。E-Mail テンプレートや手順など、お客様が所有するコンテンツを含む領域では、追加の設定が必要になる場合があります。

詳細と構成:

国際理工医学出版社協会 (STM) は、ピアレビューにおける定義と用語の特定および標準化の必要性を認識しています。発行者間で使用されるピアレビュー分類によって、記事や雑誌のピアレビュープロセスの透明性が向上し、コミュニティが異なる雑誌間でピアレビューをよりの確に評価・比較できるようになるだけでなく、研究結果が関連雑誌に掲載されることで確実に適切な読者の目に触れるようになります。

例:

◀ 前へ移動して保存 ▶ 次へ移動して保存

ブラインド法/競合

このサイト: シングルブラインド法 ▼

シングルブラインド法: 査読者は著者を見ることができます

ダブルブラインド法: 著者と査読者お互いを見ることができません

トリプルブラインド法: 著者と査読者お互いを見ることができません。また、編集者は著者を見ることができません

上のスクリーンショットには、設定ステップの[ブラインド法/矛盾]が表示されています。この言葉遣いが更新されて[匿名化/矛盾]に変更され、以下のように表示されるようになる予定です。

匿名化/矛盾

このサイト: 三重匿名化 ▼

- 一重匿名化: 査読者は著者を見ることができます
- 二重匿名化: 著者も査読者もお互いを見ることができません
- 三重匿名化: 著者も査読者もお互いを見ることができません。また、編集者は著者を見ることができません

備考: 更新されるのは、エラーメッセージ、構成センターの項目、ツールチップなど、S1M の標準領域のみです。E-Mail テンプレート、カスタム質問、手順、およびリソースの言葉遣いを更新するには、ScholarOne サポートにチケットを提出してください。必要に応じて、自社の雑誌を手作業で更新することもできます。

2. Reviewer Recommender ツール（概念実証）

2022 年 10 月にリリースされた検索技術のアップグレードを活用して、新しいタイプの査読者検索ツールを作成しました。ScholarOne Reviewer Recommender は、キーワードなどの標準的なアカウントデータだけでなく、査読依頼や採択されなかった論文の投稿レビューなど、ScholarOne に特化したユーザーの過去の査読活動に基づいて、関連する査読者を提案します。

重要事項: Reviewer Recommender ツールは概念実証の段階にあり、ご要望に応じて本番環境でのユーザーテストに利用することができます。このツールは、リリースのロールアウト時にデフォルトで有効になることはありません。

お客様/お客様の雑誌がこのテスト段階への参加を希望される場合は、担当のカスタマーサクセスマネージャーを介して、またはサポートチケットをオープンすることで、ご連絡ください。

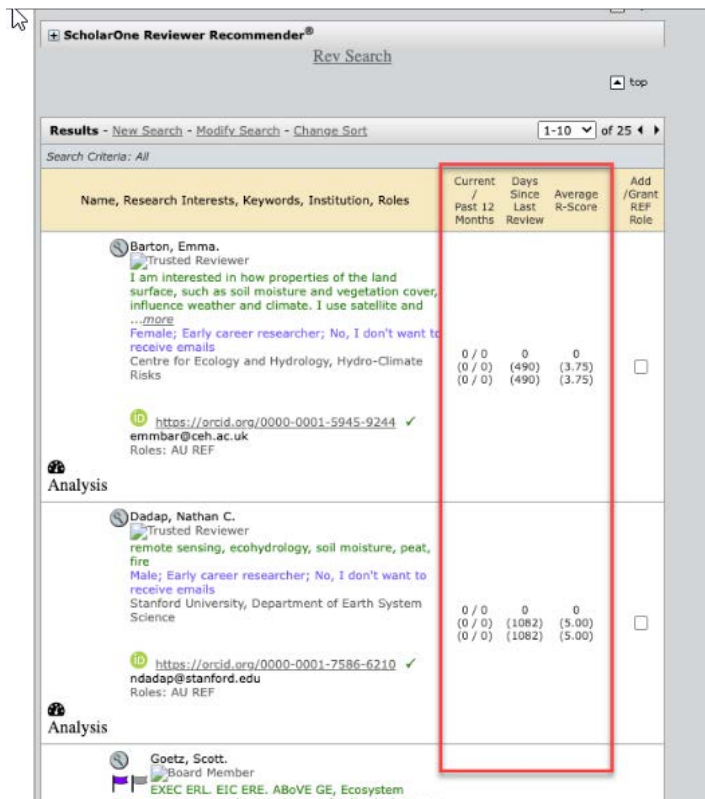
ユーザー

編集者

管理者

必要なアクション

デフォルトで無効になっています。新しい **Reviewer Recommender ツール** は概念実証中の機能であり、ScholarOne はユーザー参加テストを予定しています。参加を希望される場合は、機能を有効にすることができます。



ScholarOne Reviewer Recommender®

Rev Search

Results - New Search - Modify Search - Change Sort

Search Criteria: All

Name, Research Interests, Keywords, Institution, Roles	Current / Past 12 Months	Days Since Last Review	Average R-Score	Add / Grant REF Role
Barton, Emma. Trusted Reviewer I am interested in how properties of the land surface, such as soil moisture and vegetation cover, influence weather and climate. I use satellite and ...more Female; Early career researcher; No, I don't want to receive emails Centre for Ecology and Hydrology, Hydro-Climate Risks https://orcid.org/0000-0001-5945-9244 ✓ emmbart@ceh.ac.uk Roles: AU REF	0 / 0 (0 / 0) (0 / 0)	0 (490) (490)	0 (3.75) (3.75)	☐
Analysis				
Dadap, Nathan C. Trusted Reviewer remote sensing, ecohydrology, soil moisture, peat, fire Male; Early career researcher; No, I don't want to receive emails Stanford University, Department of Earth System Science https://orcid.org/0000-0001-7586-6210 ✓ ndadap@stanford.edu Roles: AU REF	0 / 0 (0 / 0) (0 / 0)	0 (1082) (1082)	0 (5.00) (5.00)	☐
Analysis				
Goetz, Scott. Board Member EXEC ERL EIC ERE ABoVE GE, Ecosystem responses to climate change, feedbacks between				

詳細と構成:

Reviewer Recommender ツールは、ワンクリックで検索できる機能で、編集者や管理者がこれを利用して論文の査読者候補のリストを受け取ることができます。

このツールは、ScholarOne 固有のデータを検索し、関連する可能性のあるレコードを検索することで、査読者候補のリストを作成するものです。ScholarOne 固有のデータとは、査読者検索で使用するデータセットとは別のもので、査読依頼履歴（当該ユーザーが以前に関連論文の査読を依頼されたことはあるか）、査読投稿履歴（当該ユーザーが関連する受理済み論文に対して査読を投稿したが、却下されたか WoS に記録されていないか）といった情報を含んでいます。Recommender ツールは、このデータと標準的なアカウントデータ（キーワードなど）を使用して、査読者検索プロセスで有用と思われる関連するユーザーレコードを提案します。Recommender ツールは、対象の雑誌に固有のデータのみを使用します（共有ポー

タルの場合を除き、Recommender ツールはポータル内のすべての雑誌のデータを使用します）。

このツールは概念実証段階にあり、ScholarOne はその実現可能性を判断し、出力の妥当性をテストするために、エンドユーザーからの意見を必要としています。

リリース当初、Recommender ツールはデフォルトで無効になっていますが、今後数か月の間に、一部のサイトに展開し、その取り込みとパフォーマンスをテストする予定です。テストへの参加を希望する雑誌は、担当のカスタマーサクセスマネージャーを介して、またはサポートチケットをオープンすることで、ご連絡ください。

3. Web of Science 査読者検索結果用の国フィルター

ScholarOne/Web of Science 査読者検索の統合にフィルターを追加して、特定の国からの検索結果を包含または除外できるようにしました。

ユーザー:

編集者

管理者

必要なアクション

デフォルトでは利用できません。いくつかの構成パラメーターが必要です。
ScholarOne サポートにご連絡ください。

詳細と構成

Web of Science 査読者検索の Web インターフェースでは、エンドユーザーが検索結果を出身国別にフィルタリングすることができます。このたび、ScholarOne サイトのバックエンドで起動できる機能を追加し、ScholarOne との統合により、特定の国ごとに結果を絞り込むことができるようになりました。これは、母国語を話す査読者に結果を絞り込みたい雑誌に最適な機能です。

このフィルターは UI から起動することはできません。ご希望の国別フィルターを起動するには、サポートチームにお問い合わせください。

4. ユーザーのデモグラフィック情報のための Cognos レポート

標準的なデモグラフィック質問でユーザーのデモグラフィック情報を収集している発行者/雑誌向けに、2つの新しいレポートを追加しました。

- 雑誌レベルのレポート
 - 特定の雑誌の匿名化されたユーザーデータをユーザー単位で表示する
- ポータルレベルのレポート
 - ポータルに属するすべての雑誌（通常は単一の発行者）について匿名化されたユーザーデータを集計する

ユーザー:

編集者

管理者

必要なアクション

要求に応じてご利用いただけます。アクセス方法については、担当のカスタマーサクセスマネージャーに問い合わせるか、サポートチケットをオープンしてください。

詳細と構成

雑誌レベルのレポート: Y 軸にユーザー（「回答者 1」「回答者 2」など）のリスト、X 軸にデモグラフィック質問に対する回答が表示され、各列は回答値を表します。

ポータルレベルのレポート: Y 軸に当該のポータルに属する雑誌のリストが表示されます。X 軸には、受け取った回答の数が表示されます。たとえば、雑誌 1 では「男性」の回答が 836、「女性」の回答が 927、「黒人」の回答が 623 ... のように表示されます。

ポータルレベルレポートは、ブラウザウィンドウで使用する場合、すべての報告データへのハイパーリンクがあり、回答の詳細を確認することもできます。この詳細表示の形式は雑誌レベルのレポートと同じ形式ですが、選択したデータポイントについてののみ表示されます。たとえば、836 人の「男性」を示すハイパーリンクをクリックすると、男性回答者のリストがポップアップし、他のデモグラフィック質

問に対する彼らの回答が表示されます。ここでも、個人を特定できる情報は表示されません。各レコードは、「回答者 1」、「回答者 2」... 等として表示されます。

アクセス方法: 機密性の高いユーザーデータを保護するために、デフォルトではユーザーがレポートにアクセスできないようになっています。発行者/雑誌の管理者には、必要に応じて権限を付与する必要があります。担当のカスタマーサクセスマネージャーに連絡するか、ScholarOne の通常の担当者を介して、許可を取得することができます。許可申請の有効性を確認するために、必要に応じて審査が行われます。

権限が付与されると、雑誌レベルのレポートは、管理者ダッシュボードの「ユーザーアカウントレポート」から利用できるようになります。ポータルレベルのレポートは、レポートダッシュボードで利用できます。

5. 査読者リストのページネーションの更新

ユーザーとお客様からのフィードバックを受けて、査読者リストのページ区切りを柔軟に行えるようにしました。

2022 年第 4 四半期のリリースでは、タイムアウトエラーの頻発を防いで大規模なリストを管理しやすくするために、査読者リストの人数が 10 人を超えた場合に自動的にページを区切る機能が導入されました。

ユーザーからのフィードバックによって、この解決策は柔軟性に欠けることが判明しました。そこで、ワークフローの効率を最大化し、大規模な査読者リストに関連するシステムタイムアウトをより緩和するために、この領域でいくつかの改良がリリースされる予定です。

- 査読者リストをステータス別に並べ替えられるようになりました。
- [管理者ツール] > [サイト設定] (管理者ダッシュボード) に新しい設定を追加しました。
 - 査読者リストのページネーションをオン/オフする機能
 - ページネーションがオンの場合、管理者は 1 ページに表示する査読者の数を設定できる
- [全員に依頼] ボタンで、すべてのページのすべての査読者に対して依頼をトリガーできるようになりました。

- 新たに追加された査読者は最後のページに表示されます（ページネーションがオンの場合）。

ユーザー:

編集者

管理者

必要なアクション

デフォルトで使用可能です。構成は不要です。

詳細と構成:

- 査読者リストをステータス別に以下の順で並べ替えられるようになりました。

査読者 リスト 1-8 / 8					処理中	
順番	名前	ステータス ↓	履歴	削除	必要査読数 #	2
1	S ₁ Reviewer 代理操作 期限を延長	同意済み	依頼日: 2023-3-18 同意済み: 2023-3-18 提出期限: 2023-4-17 査読経過日数: 0 日 履歴の表示 リマインダーの編集	☒	候補人数 #	4 ☒
6	A ₁ Reviewer 代理操作 期限を延長	同意済み	依頼日: 2023-3-18 同意済み: 2023-3-18 提出期限: 2023-4-17 査読経過日数: 0 日 履歴の表示 リマインダーの編集	☒	依頼済み人数 #	3 ☒
2	P ₁ Reviewer 代理操作	辞退済み もう一度招待	依頼日: 2023-3-18 辞退済み: 2023-3-18 履歴の表示	☒	承諾済み人数 #	2 ☒
3	N ₁ Reviewer 代理操作	遅延応答 もう一度招待	依頼日: 2023-3-18 遅延応答: 2023-3-18 履歴の表示	☒	辞退済み人数 #	4
4	M ₁ Reviewer 代理操作	応答なし もう一度招待	依頼日: 2023-3-18 応答なし: 2023-3-18 履歴の表示	☒	査読提出済み人数 #	0
5	B ₁ Reviewer 代理操作	使用不可 もう一度招待	依頼日: 2023-3-18 使用不可: 2023-3-18 履歴の表示	☒	☒ 保存	
7	test _{qa_author} 代理操作	依頼中 返答 選択... ☒ 保存	依頼日: 2023-3-18 履歴の表示	☒	査読者 アカウントを作成	
8	Chen, Lei	☒ 依頼	選出日: 2023-3-18 履歴の表示	☒	+ 査読者情報を追加	
依頼待機					検索オプションの表示設定	

改訂履歴

WRK4-2023-0005

● 投稿日: 2023-2-7

▲ トップ

- 管理者ダッシュボードの [サイト設定] に新しい構成オプションが追加され、査読者リストのページネーション設定を必要に応じて調整できるようになりました。

査読者および査読者センター	
査読依頼リマインダー	
査読依頼に返信が無かった場合、2週間の自動リマインダーを送信できます。依頼日からリマインダーを送信するまでの日数をそれぞれに入力して下さい。各E-Mailテンプレートはダッシュボードにある「E-Mailテンプレート」内の「システムE-Mail」より編集可能です。	
3	査読依頼リマインダー 1
5	査読依頼リマインダー 2
査読依頼の返信期限	
査読依頼への返信が無かった場合に、期限超過となるまでの日数	
3	日
ページネーションツール	
☒	ページネーションツールを有効にする
1 ページあたりの査読者数	20
☒ 保存	

- [全員に依頼] ボタンで、すべてのページのすべての査読者に対して依頼をトリガーできるようになりました（以前のページネーション機能では単一ページのすべての査読者にしか依頼できませんでした）。
- 査読者リストのページネーションがオンになっている場合、新たに追加された査読者は最後のページに追加されます。

6. Cookie 同意バナーと Cookie の設定管理

ScholarOne の Cookie の設定管理を実装しました。

ユーザー



必要なアクション

デフォルトで使用可能です。構成は不要です。

詳細と構成

ユーザーが ScholarOne のページを訪問すると Cookie 同意バナーが表示され、Cookie の利用に同意するかどうかを選択しなければならなくなりました。



また、ユーザーが ScholarOne のフッターにある [cookie の設定を管理する] を選択することで、Cookie 設定をいつでも更新できるようになりました。



7. S3 へのバッチエクスポートのデポジット

バッチ設定に新しい場所、Amazon S3 バケットを追加しました。

ユーザー:

管理者

必要なアクション

要求に応じてご利用いただけます。アクセス方法については、担当のカスタマーサクセスマネージャーに問い合わせるか、サポートチケットをオープンしてください。

詳細と構成

Amazon S3 (Simple Storage Service) は、Amazon Web Services (AWS) が提供するクラウドベースのオブジェクトストレージサービスです。Amazon S3 は、ファイル、画像、動画などのオブジェクトに対してスケーラブルなストレージを提供し、高い

可用性と耐久性を持つように設計されています。S3 バケットは、とは、Amazon S3 サービス内でオブジェクトを保存するためのコンテナです。バケットはオブジェクトを整理・管理するために使用され、固有のバケット名とリージョンによって識別されます。

Batchの追加

Batch名:

アーカイブエクスポートは以下の設定に関係なく処理されます

タイミング: ☐

☐ 毎週 (日曜日)

☐ 毎月 (毎月 1 日)

☐ 毎日

☐ 規定数 (到達後 24 時間以内に実行) =

対象

☒ 以下に指定する場所:

エクスポート名:

☒ ファイルとメタデータ (メタデータ、マニフェスト、DTD、原稿ファイル、査読用PDFをzipに格納)

☐ メタデータのみ (メタデータ、マニフェスト、DTDをzipに格納)

☐ ファイルとメタデータ (メタデータ、マニフェスト、DTD、原稿ファイルをzipに格納)

☐ 単一ファイル (xml, html, csv) のみ

☐ 単一ファイル (xml, html, csv) とPDF - 最終原稿フロー設定サイトのみ有効

☐ メタデータとファイル (XML 形式のメタデータファイルと zip ファイルに格納された論文ファイル)

場所:

選択ローケーション: Amazon S3 バケット

S3 バケット名:

(例: s1m-batch-export)

S3 バケット地域:

S3 バケットフォルダー:

(例: scholarone/manuscript)

8. 論文ヘッダー内の「投稿からの経過時間」の調整（分数と秒数を含むように）

論文ヘッダーの「投稿からの経過時間」エリアを更新し、秒単位まで表示されるようにしました。

編集者

管理者

必要なアクション

デフォルトで使用可能です。構成は不要です。

詳細と構成

ページの上部にあるタイマーは、投稿からの経過時間を秒単位まで記録し、ページが読み込まれるとタイマーが更新されます。このタイマーがページ上でリアルタイムで時を刻むことはありません。



9. 新しい E-Mail タグ: ##TASK_DECISION_AUTHOR##

著者に対して表示されるように設定された決定名を取得する新しい E-Mail タグを追加しました。

編集者

管理者

必要なアクション

デフォルトで使用可能です。構成は不要です。

詳細と構成

[E-Mail テンプレート] > [文書タスクフィールド] に、##TASK_DECISION_AUTHOR## タグが「この著者について採否のテキストが表示されるように設定されています」という説明付きで追加されました。

このタグは、[タスク構成] > [評価/決定] または [決定タスク] > [決定テキスト] > [著者] で設定された値を取得します。

順番	決定の種別	決定テキスト	許可された 日数	有効	削除
##TASK_DECISION##					
1	受理	すべて: 受理 著者: 受理	0	☒	☐
##TASK_DECISION_AUTHOR##					
2	修正	著者: 小改訂	30	☒	☐
3	修正	すべて: 大改訂 著者: 大改訂	60	☒	☐
4	修正	すべて: 言語編集の改訂 著者: 言語編集の改訂	60	☒	☐

10. 新しい E-Mail テンプレート: スタブの拡張付与

招待投稿のワークフローに、スタブの拡張を著者に通知するための新しい E-Mail テンプレートが追加されました。

編集者

管理者

詳細と構成

この E-Mail は、[E-Mail テンプレート] > [システム E-Mail] > [依頼著者宛の E-Mail] にあります。この E-Mail は、著者リストのアカウント詳細から著者に対して拡張が許可された場合にトリガーされます。

The screenshot shows the 'Author List' table with columns 'Order', 'Name', and 'Status'. The author 'test_test' is highlighted. A dialog box titled 'Grant an Extension:' is open, showing the 'Due date for Invited Submission' as '20-May-2014'. The 'Send a Reminder E-Mail to this Author' section is also visible, with a dropdown for 'E-Mail Template to Use' and a 'Send' button.

依頼著者宛の E-Mail	ポップアップ	iCal	有効	編集	削除
執筆依頼リマインダー1 - テンプレートの追加					
Author Invitation Reminder 1	☐	☐	☐		☐
執筆依頼リマインダー2 - テンプレートの追加					
Author Invitation Reminder 2	☐	☐	☐		☐
スタブの拡張が許可されました - テンプレートの追加					
Extension granted	☐	☐	☐		☐

##著者_提出期限## タグは、テンプレートに使用します。

11. Publons のブランド名変更（進行中）

ブランド名「Publons」が記載されている箇所を「Clarivate/査読者検索」で置き換える作業を継続的に実施します。

編集者

管理者

必要なアクション

デフォルトで使用可能です。構成は不要です。

詳細と構成

Publons のアイコンは以下の場所で置き換えられました。

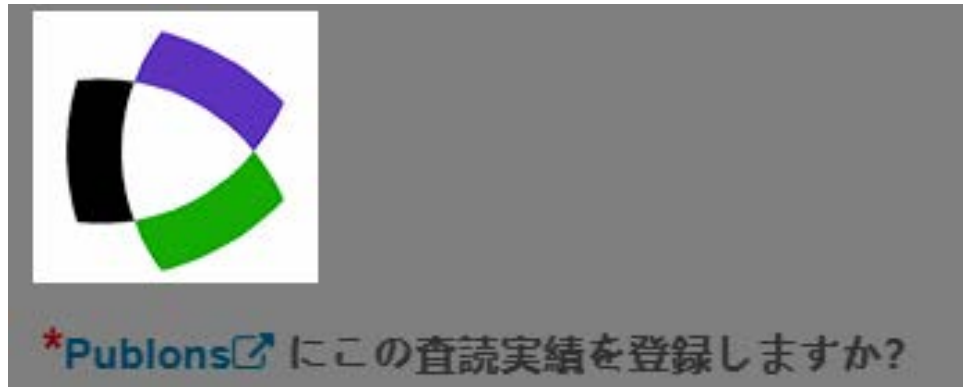
- 査読者検索の検索結果

Marco Invernizzi



marco.invernizzi@med.uniupo.it; University of Eastern
Piedmont Amedeo Avogadro, Soc Italiana Studio Disabilita
Muscoloscheletr SI, Soc Italiana Studio Disabilita Muscolo
Schelet SI, Soc Italiana Studio Disabil Muscoloscheletr
SISDI, Azienda Ospedaliera Maggiore della Carita di
Novara, SISDIM, Azienda Osped Univ, Azienda Univ Osped,
Azienda Univ Osped Maggiore della Carita, SCDU Med Fis &
Riabilitat AOU Maggiore Carita

- 査読者センター



リリース後、追加のブランド名変更を行うスクリプトが以下の領域で実行されます。

- 標準的な Publons のオプトイン質問
- 査読センターダッシュボード内の [Publons での認知の受理] の用語変更
- 認知の受理質問に対する投稿済み査読のプルーフ回答
- 透明性の高いピアレビューの標準カスタム質問

12. 論文転送時にも保持される寄稿者ロール分類（CRediT）論文情報

転送機能を更新し、元の投稿で提供された CRediT 寄稿が、論文が別の雑誌に転送された場合も継承されるようにしました。

編集者

管理者

必要なアクション

CRediT 寄稿分類を収集するように設定されたサイトでは、デフォルトで使用可能です。

CRediT 情報は、論文の各著者について、投稿時に任意または必須として取得されます。さらに、「寄稿度」は、CRediT の各ロールの選択により、任意または必須とすることができます。

著者

* 著者リスト

順序	操作	著者	所属機関名
1	選択...	Dahl, Joshua	1. Clarivate Analytics US LLC Philadelphia, PA, USA 19130-4067
* CRediT 寄稿を行う josh.dahl@clarivate.com			
2	選択...	Fisher, Adrienne	1. 1500 Spring Garden St 4th Floor Philadelphia, PA, USA 19130
* CRediT 寄稿を行う adrienne.fisher@clarivate.com			

著者の順序の更新

CRediT 寄稿には、寄稿者ロールと寄稿度を含めることができます。

著者の編集

* 著者名編集 - CRediT 分類

寄稿者ロール	寄稿度	寄稿者ロール	寄稿度
☒ 概念化	同等	☐ リンク	
☐ データ整理	同等	☐ ソフトウェア	
☐ 正統分析	同等	☐ 管理	
☐ 助成金の取得	同等	☐ 検証	
☐ 調査	同等	☐ ビジュアル化	
☐ 方法	同等	☒ 作成 - 元草稿	同等
☐ プロジェクト管理	同等	☒ 作成 - 査読と編集	同等

転送元の雑誌と受信側の雑誌が両方とも CRediT 寄稿分類を収集するように設定されている場合、「転送元」の雑誌で論文にこの情報が存在していれば、その情報が受信側の雑誌の「転送先」の草稿に自動入力されます。

13. 新しい構成オプション: 査読完了時の未投稿防止

査読が完了した論文の未投稿を防ぐために、[論文詳細] 構成ステップに新しい構成オプションを追加しました。

編集者

管理者

必要なアクション

構成へのアクセス権を持つユーザーが利用できます。アクセス権がない場合は、担当のカスタマーサクセスマネージャーに問い合わせるか、サポートチケットをオープンしてください。

詳細と構成

このオプションは、構成センターの [論文詳細] ステップで設定できます。

この新しい構成オプションがオンになっていて、破棄されていないスコアタスクが存在する場合、[ファイル管理] タブに以下のメッセージが表示されます。

14. 通知サービス: 著者の依頼取り消し、著者のアサイン解除、スタブの期限変更

招待投稿ワークフロー内のイベントに対する新しいシステムイベント通知を追加しました。

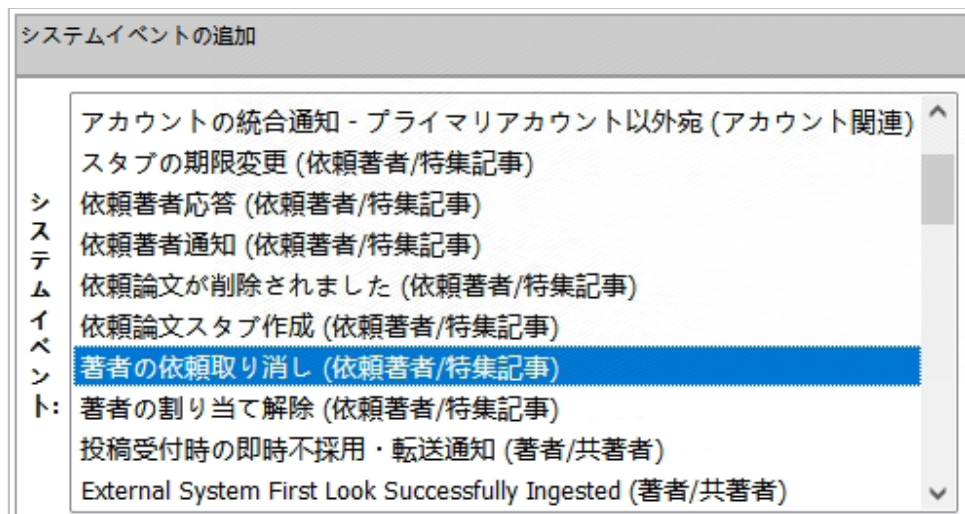
ユーザー:

開発者

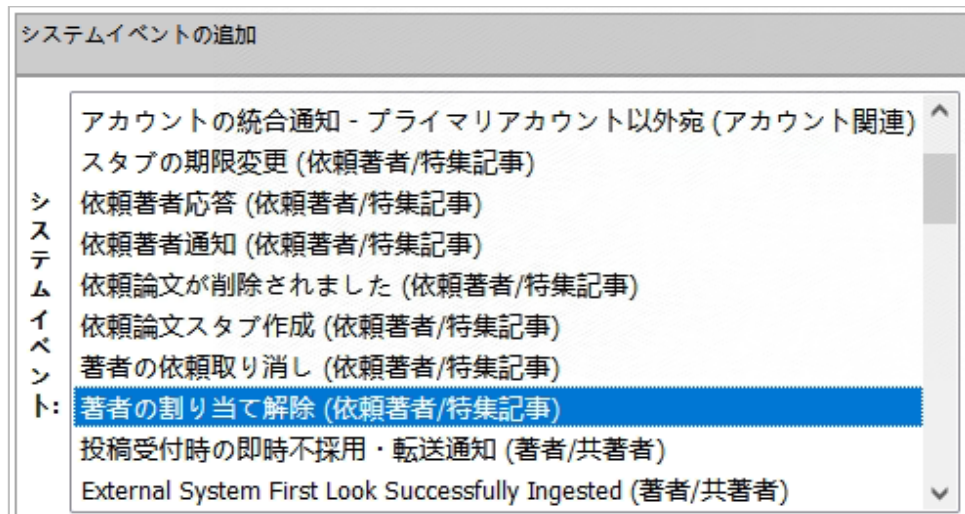
必要なアクション

統合センターへのアクセス権を持つユーザーが利用できます。アクセス権がない場合は、担当のカスタマーサクセスマネージャーに問い合わせるか、サポートチケットをオープンしてください。

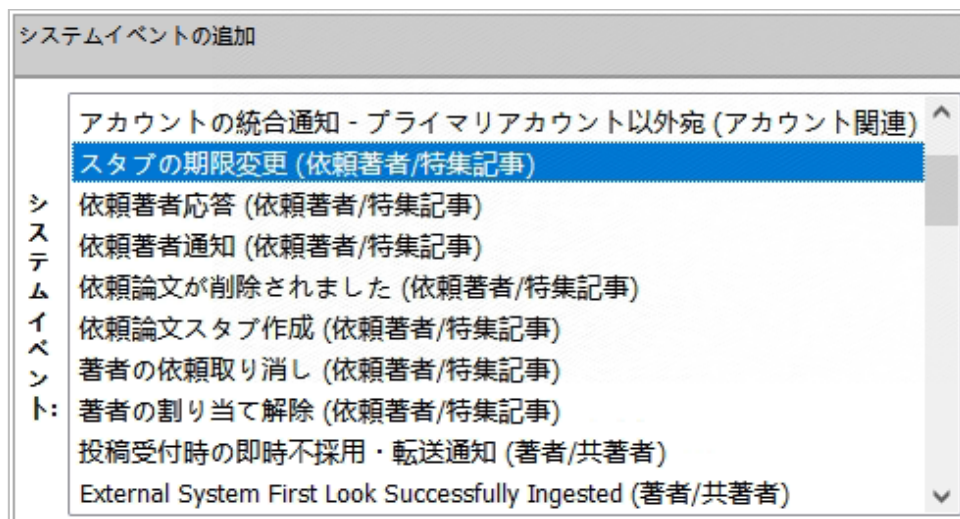
- **著者の依頼取り消し:** この通知は [システムイベント] の下に設定され、招待投稿の著者への依頼が取り消された場合にトリガーされます。



- **著者のアサイン解除:** この通知は [システムイベント] の下に設定され、招待投稿の著者へのアサインが解除された場合にトリガーされます。



- **スタブの期限変更:** この通知は [システムイベント] の下に設定され、スタブ、すなわち招待投稿の期限が変更された場合にトリガーされます。この通知には新しい期限が含まれます。



15. OA 著者の公開方法選択に関する Cognos レポート

オープンアクセス（OA）と著者選択質問への回答に関連した新しいデータフィールドが Cognos に追加され、どれが完全にオープンアクセスで、どれが従来の公開方法（APC）なのかを発行者が追跡できるようにしました。

ユーザー:

編集者

管理者

必要なアクション。

デフォルトで使用可能です。構成は不要です。

詳細と構成

これらのデータフィールドは以下の場所にあります。

a) [カスタムレポートの作成]

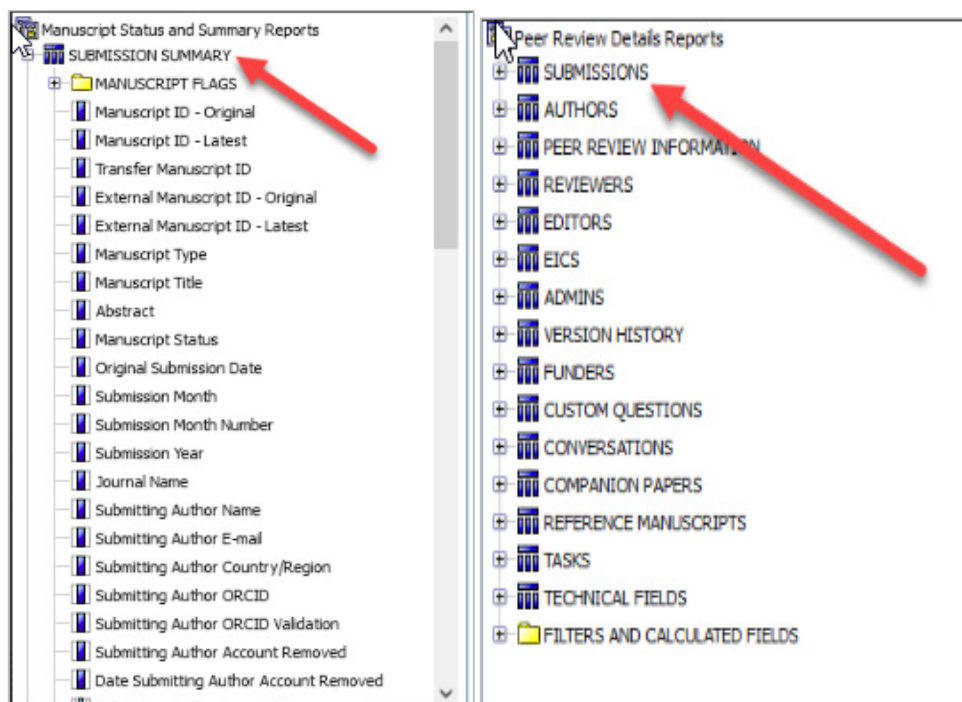
└ [論文ステータスと詳細レポート]

└ [投稿の概略]

b) [カスタムレポートの作成]

[ピアレビュー詳細レポート]

[提出]



ファイルを管理		Manuscript ID - Original	Submission Year	Publication Type
☐ First Decision			2021	Open access
☐ First Decision Date			2021	Open access
☐ Latest Decision			2021	Open access
☐ Latest Decision Date			2021	Open access
☐ Accept or Reject Final De			2021	Open access
☐ Due Date of Latest Revis			2021	Open access
☐ Date First Look Submitte			2021	Open access
☐ Tracking Number - Invite			2021	Open access
☐ Due Date of Invited Paper			2021	Open access
☐ Topic			2021	Open access
☐ Topic Path			2021	Open access
☐ Last Exported Date			2021	Open access
☐ E-Commerce - Total Paym			2021	Open access
☐ E-Commerce - Last Paym			2021	Open access
☐ E-Commerce - Person St			2021	Open access
☐ # Revisions			2021	Open access
☐ # Resubmissions			2021	Traditional
☐ # Days Between Origina			2021	Traditional
☐ # Days Between Origina			2021	Traditional
☐ # Days Since Original Su			2021	Traditional
☐ # Days Since Latest Sub			2021	Traditional
☐ # of Manuscripts				
☐ Publication Type				

16. 主な問題修正と機能の最適化

- **iThenticate エラーメッセージ**

- 未処理の iThenticate エラーコードメッセージに関連する問題で、盗用検査が保留状態でスタックする問題を解決しました。

- **FTP から SFTP へのアップグレード**

- エクスポートサーバーを FTP から SFTP に更新しました。
- 自動バッチエクスポートと手動エクスポートの間に一貫性がない問題を解決しました。

備考: ScholarOne では、リリースとリリースの間に数多くのパッチやホットフィックスを配布し、ユーザーにプラットフォームの継続的な改善を提供しています。これらの多くは、プロセスを最適化するために内部のチームが行っているもので、ワークフローには影響しません。これらの変更についてご質問がある場合は、サポートにお問い合わせください。

- **投稿の統合**

- EPS ファイルが PDF プルーフで正しく描画されるようにする問題を解決しました。

- **論文の投稿**

- 論文の修正で、Latex ファイルが HTML プルーフと PDF プルーフで表示されない問題を解決しました。
- 論文投稿時に画像ファイルが PDF に変換されない問題を解決しました。

- **Funder Registry**

- FundRef RDF レジストリファイルのアップロードで、<broader> タグを含む FundRef エントリが取り込まれない問題を解決しました。
- FundRef データの処理に一貫性がない問題を解決しました。

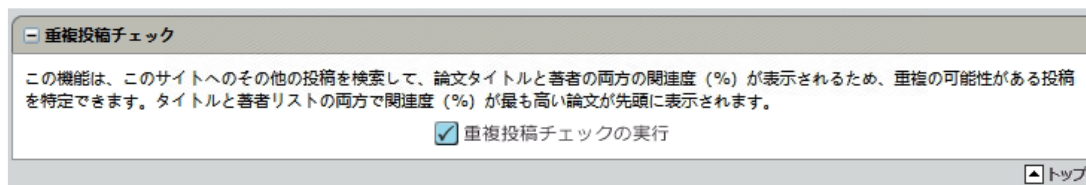
- **ユーザーアカウント**

- Web Services - API getPersonInfoFull で非アクティブなユーザーアカウントの結果が返されなくなりました。
- ユーザーのアカウントに情報の欠落がないのにエラーメッセージ「プロフィールを更新する必要があります」が表示される問題を解決しました。
- 査読者検索 - 査読者検索リストから E-Mail アドレスのない人物を追加する場合の問題を解決しました。

17. ScholarOne ですでに利用できる機能

アップグレードされた検索エンジンを使用した重複投稿チェックツールが、テスト段階を完了して利用可能になりました。

興味のある方は、担当のカスタマーサクセスマネージャーに詳細をお問い合わせください。



18. ScholarOne の今後の予定

Web of Science を介した ScholarOne の統合ログイン

来年、ScholarOne は Web of Science の ID プロバイダー（1P）と統合され、ScholarOne ユーザーにシングルログインを提供する予定です。

- ScholarOne ユーザーは、Web of Science（1P）アカウントを作成するか既存の 1P アカウントを使用して、S1M アカウントをその 1P アカウントにリンクすることができます。
- アカウントがリンクされると、1P の資格情報を使ってログインするだけで、S1 アカウントにもアクセスできるようになります。
- 複数のサイトや発行者に対するすべての ScholarOne アカウントを単一の Web of Science アカウントにリンクすることができます。つまり、ScholarOne ユーザーは 1 組の資格情報で自身のすべての ScholarOne アカウントにアクセスできるようになります。

ScholarOne は、今後数か月の間に、段階的なロールアウトを通じて、雑誌サイトで [Web of Science を使用してログイン] オプションを有効にし、S1M エンドユーザーに SSO（シングルサインオン）ソリューションを提供する予定です。このログインは、他のソーシャルログイン（Google や Facebook など）と同様で、Web of Science のフリーミアムアカウントを認証ポイントとして使用します。



ログイン

ユーザー ID

[アカウントを作成](#)

パスワード

[パスワードのリセット](#)

ログイン

 Web of Science™ を使用してログイン

リンク

[チュートリアル](#)

[投稿規定・各種書類](#)

[Journal Home](#)

[ヘルプ/サイトサポート](#)

このログイン方式はオプションとして提供され、Web of Science のアカウントを新規に登録することも、既存のアカウントでログインすることもできます。その後、認証プロセスでは、既存の S1M アカウントを検証し、リンクするようユーザーに促します。この操作は、ユーザーが ScholarOne アカウントを持っているサイトならどのサイトでも実行できます。

備考: これは、ScholarOne の認証プロセスを単一の統合アカウントに完全に移行するための段階的計画の第一段階です。計画とタイムラインの詳細については、担当のカスタマーサクセスマネージャーか、ScholarOne の通常の担当者にお問い合わせください。

クラリベイトについて

Clarivate™は、イノベーションを加速する信頼性の高い知見や分析を提供する、世界的リーディングカンパニーです。当社の使命は、新しいアイデアから人生を変えるような発明を生む時間を短縮するための、実用的な情報とインサイトを提供することにより、お客様が抱える難題を解決できるよう支援をすることです。サイエンスや知的財産の分野において、基盤となる研究やアイデアから保護、そして商業化に至るまで、イノベーションのライフサイクル全体をカバーする深い専門知識を備えたサブスクリプションおよびテクノロジーベースのソリューションを提供しています。詳細については、clarivate.com/ja をご覧ください。

お問合せ:

+1 215 386 0100 (米国)

+44 (0) 20 7433 4000 (ヨーロッパ)

clarivate.com/ja

© 2022 ClarivateClarivate とそのロゴ、およびここで使用されている他のすべての商標は、それぞれの所有者の商標であり、ライセンスに基づいて使用されています。